

令和八年六月号

〔第百六十二号〕

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

水無月の祭典・行事案内

みなづき

【月次祭】九時半

十二日(金)

二十四日(水)

己巳の日

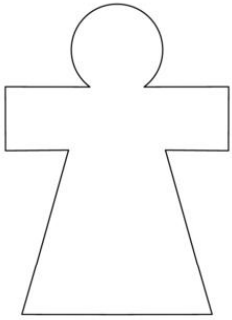
【崇敬会会計監査】

二十三日(火)

【夏越し大祓】三十日(火) 十五時〜

《ひとがたの配布について》

五月三十一日(日)の月次祭から「人形」を配布します。氏名と生年月日を記入して、大祓の当日三十日(火)または、事前に社務所にご持参下さい。初穂料は一家族千円からです。持参された方には茅の輪(小)を授与します。(お一人にひとがた一枚です)



氏名

生年月日

【昭和天皇御製】(第一二四代)

「鳥」

国のつとめはたさむとゆく道のした
堀にここだも鴨は群れたり

「鳥取県における植樹行事」

静かなる日本海をながめつつ大山の
嶺に松うゑにけり

(昭和四十年)

【第十六回総代会】



令和八年度の岩國白蛇神社第十六回総代会が五月十六日に開催されました。崇敬会会長を来賓としてご挨拶を頂き、宮司が議長を務め、会が進行されました。七年度の行事・決算等の報告がされ、特に巳年であったこともあり、多くの参詣に恵まれたこと、特に十月の

月次祭には六十名を超える参列があるなどの有り難き報告がされました。

江戸期から白蛇を神の使ひとする信仰を今に受け継ぎ、将来にわたり弘める為、一層の精進をしなければならぬと決意を新たにしました。

【推薦図書】

『文化侵略で読む日本史』

千六百円十税

宮崎正弘 著

文化が破壊されてしまった

「失われた八十年」のあいだに日本は日本らしさを喪失した。日本は米国と中国の精神的奴隷に近い。戦後の日本人は精神的に懦弱でものごとの本質に背を向け、防衛に関心が薄い。

最大の原因はGHQの置き土産、日本人の洗脳工作装置の残置だ。

文化侵略 で読む日本史

宮崎正弘

移民、AI、宗教、戦争
日本が日本で
なくなってしまう!

歴史上の日本の危機は誰が救ったのか
福作・戦争・運來人、外國代理人、元寇、シナ文化、一神教、西歐文化、GHQ

今こそ「日本らしさ」の興亡に学ぶ

産経新聞出版

いわゆる『WGIP』(ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム)がいまも甚大な悪影響を残しているだけに、以前より悪化していることに加え、日本人そのものが劣化している。

米軍の日本占領が終わりGHQは去ったが、主権回復後も日本に常識的な主権があるとは思えない。伝統的な精神が廃れ、思想の貧困と混乱は米国が残置した目には見えない洗脳装置の作用の結果である。・・・(エピソード 日本らしさ喪失の先に)から

本居宣長

『直毘靈』を読む（十四）

さて、其の道といふ物のさまは、いかなるぞといへば、仁義・礼讓・孝悌・忠信などいふ、こちたき名どもを、種々作り設けて、人をきびしく教へおもむけむとぞすなる。さるは、後の世の法律を、先王の道にそむけりとして、儒者は謗れども、先王の道も、古の法律なるものをや。また、易などいふ物をさへ作りて、いとも心深げに言ひなして、天地の理りを極めつくしたりと思ふよ。これは、はた、世人をなづけ治めむための、謀り事ぞ。

（続く）

【現代語訳】

そこで、その「道」といふものはどんなであるかといふと、「仁義・礼讓・孝悌・忠信」などといふ仰々しい名目の類を色々として作成して、人間を厳しく教へ方向づけやうとするやうだ。実は、後世の法律を先王（昔の聖王）の道に背いてゐるといつて、儒学者は悪口を言ふけれども、先王の道も昔の法律であるのだ。又、易（占ひ）などといふものをまでも作成して、たいへん意味深さうに強ひて言つて、天地の道理を極め尽くしてゐると思ふよ。これも、例によつて、世の中の人を手なづけ手際よく処理しようとするための策略であるのだ。

【昭和祭】

この四月二十九日に「昭和祭」が斎行されました。祭典前に、国歌斉唱・昭和天皇武蔵野御陵を遙拝しました。

修祓・宮司一拝・献饌・祝詞奏上と続き、昭和天皇の御製十首を参列者全員で奉唱し、そして、舞姫による「豊榮舞」が奉納されました。祭典後の宮司挨拶では、「皇室典範」改正が進められてゐる中で、「皇室典範」減少対策として、女性皇族が一般の人と結婚した場合、民間人となる原則を変へて、



皇族の身分を継続する旨の法案に対して、その場合、その皇族の中に皇族と民間人がゐるといふことになり、又、夫やその子どもを皇族にす



べきとの論が惹起される事等を考へると、賛成できない。また、旧宮家の男子を今の皇族へ養子縁組する案には賛成であるとの話でした。二千年の皇統の歴史とは許されるべきではないとせう。



「昭和百周年」にあたり

当神社には、昭和100年ネットワークから送って頂いたポスターが掲示してあります。参詣者の中には、懐かしく見てをられて同伴者と会話が弾んでゐる様子をよく見ます。

昭和の時代は有史以来の激動と苦難、そして、復興と変革の時代でした。そのことを再確認するためにも、「立憲君主 昭和天皇」上・下（川瀬弘至著）をお薦めします。この書は「昭和天皇実録」に依拠しており、昭和天皇の大御心が垣間見られ、改めて天皇の御存在の有り難さが心に沁み、今の政治家のみならず、一般の方々にも是非とも読んで貰ひたい書となつてゐます。昭和の時代を学ぶことは日本の未来を考へることになります。

立憲君主

下巻

昭和天皇

今般の「譲位」にまで続く
天皇と国民の固い絆。

昭和天皇が主君の時代は、国民の御心が固く結ばれた時代であった。まもなく迎える「新皇」との絆を、この書があなたに伝える。

川瀬弘至 著
原書刊行「昭和天皇実録」取材協力

戦後篇！